

令和3年度版

園児を対象とした 水害に関わる防災教育資料

令和3年9月

国土交通省 近畿地方整備局
豊岡河川国道事務所

(資料提供・編集協力)
豊岡市



園児を対象とした 防災教育

—教材の紹介、使い方及びポイント—

近年、想定を超えるような自然災害が全国各地で毎年のように発生しています。そうした自然災害から命を守るためには、幼少期からの防災教育が重要との認識のもと、豊岡市では、平成16年台風23号が発生した時期に合わせ、毎年10月にメモリアル防災授業を展開しております。これまで小中学校を対象とした教材を作成して参りましたが、この度は園児を対象とした防災教材を作成しました。

本教材は、園児を対象としたものであることから、写真やイラストの提示による感覚的に学ぶ教材としました。

防災教育の指導にあたっては、災害の恐ろしさだけを伝えるのみで終わってしまえば、子どもの災害に対する強い恐怖や不安を引き起こすことになってしまうこともあります。そこで、本教材では、**自然災害の恐ろしさとともに、自然からの恵みや良い部分も伝えることにより、「恵みと災い」の両面からもアプローチできるもの**としました。

本教材が、幼児期の防災教育に少しでもお役に立てれば幸いです。



令和3年9月

国土交通省 近畿地方整備局豊岡河川国道事務所・豊岡市

教材について

アンケート結果より

避難訓練のときに
使用したい

災害写真は被災した職員に
辛い経験をよみがえらせてしまう

写真を見せながら
先生が解説した

低学年用の教材を使用した
けれど、園児には難しい

園児は目で見る
資料に興味を持った

園児は文章を
理解することは難しい

現場の
先生たちの
声

R2年度「水害に関わる防災授業資料」使用後のアンケートによる

＼ アンケート結果を参考に園児用の教材を作成しました。 ／

写真教材

1 “いま”と“すいがい”が比較できる写真



「見慣れた風景が水害によってこうした状況になってしまう」ということがイメージできるような写真集を、市内の地域ごとに整理しました。

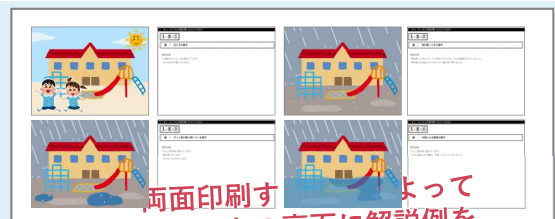
2 建物の想定浸水深を示した写真



計画規模の降雨による洪水浸水想定区域図（現在防災マップとして作成中）での想定浸水深をもとに、見慣れた建物が水害時に浸水した場合をイメージできる画像を作成しました。

イラスト教材

「災害写真は被災した職員に辛い経験をよみがえらせてしまう」といった声を受け、また、ものがたりのように水害時に起こりうることを伝えられるよう、イラストで説明できる教材を作成しました。



水害の恐ろしさだけでなく、雨がもたらす恵みや、家族との話し合いを促すイラスト、クイズも準備しました。



写真やイラストを単体で使い分けることができる構成となっています。園や園児の状況に合わせて、自由に組み合わせてご使用ください。

— 防災教育の3つのポイント —

1 水害のイメージを持ってもらう

まずは、水害ではどのような状況になってしまうのか、どのような危険があるのかを知り、イメージをもってもらいます。そうして、災害に関心を持ち、なぜ災害に備える必要があるのか、我が事感を持ってもらう第一歩とし、小学校での防災教育への橋渡しとすることが重要です。

2 家庭での防災教育につなげる

園児に対して防災教育を行ったとしても、自らの意思で災害に備え、対応行動をとることは年齢的に無理があります。そのため、子どもたちを災害から守るためには、**家庭での災害への備え、対応が必要不可欠**となります。

家庭での災害への備えや対応が大事です



子どもが小さいことから、我が子を守ることに、保護者の安全意識も高いことがうかがえます。また、園に通う子どもの親においては、毎日園に子ども送り迎えする機会があり、園と保護者とのつながりが小中学校よりも濃厚であると思われます。

園児への防災教育については、園だけにとどまらず、**園児の保護者に対してつなげていく機会**としていただきたいと思います。

園での防災教育の取組みを掲載した配布資料を作成しました。保護者との情報共有にご活用ください。



3 自然の「恵み」と「災い」の両面を教える

水害や土砂災害に対する危険を知ってもらうことは重要ですが、災害の恐ろしさを教えるのみでは、自分が住まう地域を恐れ、地域のことを嫌いになってしまうことが懸念されます。

園児の恐怖心だけを煽る、いわゆる「脅しの防災教育」にとどめることなく、自然（雨や川）を嫌いになったり、自然（雨や川）に対して悪いイメージだけを持つことにならないよう、**自然（雨や川）の「恵み」や「良いところ」**についても一緒に伝えることが大切です。



雨をもたらす自然の恵みを扱っているイラストも準備しています

教材の 使用方法

イラスト教材は主に、「1. もし、たくさんの雨が降ったらどうなる?」、「2. たくさんの雨が降ったときはどうする?」、「3. 雨の良いところってどんなところ?」の**3つのテーマ**で構成されています。各テーマ、各イラスト**単体でも使用できる構成**となっていますので、**園の特性や目的、深めたい内容など、目的に応じて**使用してください。

3つのテーマ

1 もし、たくさんの雨が降ったらどうなる?

2 たくさんの雨が降ったときはどうする?

3 雨の良いところってどんなところ?

例えば・

避難訓練のとき
1の幼稚園のイラストで
大雨のときに
どんな心配があるかを話そう。

今週末台風が来るかもしれない。
1と2を組み合わせて話そう。

使用例のご紹介

1 もし、たくさんの雨が降ったらどうなる?

ねらい：大雨のときに起こることを知る

■ 大雨のときの状況を表したイラストや写真を提示する



発問
例

もし、たくさんの雨が降ったら、どうなるでしょう。

ポイント

●園や園児に合わせてイラスト、写真を自由に組み合わせて使用する。

提示する
イラスト
例

導入時



場所別に大雨のときの状況の
移り変わりの様子をまとめています

	川	園	家や街	山
①日ごろの様子	1-川-①	1-園-①	1-家や街-①	1-山-①
②雨が降ってきた様子	1-川-②	1-園-②	1-家や街-②	1-山-②
③ずっと雨が 降り続けている様子	1-川-③	1-園-③	1-家や街-③	1-山-③
④⑤大雨による被害の様子	1-川-④ 1-川-⑤	1-園-④	1-家や街-④	1-山-④

提示する
写真
例

ポイント

- 水害でどのような状況になってしまうのか、どのような危険があるのかを知り、イメージをもってもらう。
- 園児の反応に合わせて説明の量や進める速さを調節する。

発問
例

みんなが行ったこと
(通ったこと)がある
場所の写真です



発問
例

昔の大雨で
大変なことに
なっています

※ 下の写真は、収録・提供資料の一部です。園周辺の場所や、園児たちが行ったことがある場所を考慮して、効果的な写真をご活用ください。



■ イラストの解説例をもとに
状況の移り変わりの様子と雨によって起こる危険なことを説明する

ポイント

- イラストを提示しながら、園児に声掛けをしたり、園児からの質問に答えるなど、園児の興味関心が途切れないようコミュニケーションをとりながら進める。



発問
例

雨がたくさん降ると怖いですね。

2 たくさんの雨が降ったときはどうする？

ねらい：大雨のときの危険なことからの身の守り方を知る



発問例

たくさんの雨が降ったときは、危ないことが起こります。

■ 大雨のときの約束ごとを伝える



発問例

みんなの命を守るためにも、家族の言う事を聞きましょう。

提示する
イラスト
例

2-1

洪水時の避難



■ 家庭を巻き込んで防災の取り組みを進めることにつながるような声掛けをする



発問例

大雨のときどうするか、家族に聞いてみましょう。

提示する
イラスト
例

2-2

家族に聞く



ポイント

- 園児は自らの意思で災害に備え、対応行動をとることは難しいため、家庭での災害への備え、対応につなげる。
⇒園での防災教育の取組みを掲載した配布資料を配付



○×クイズ

ゲーム感覚で楽しく学べるクイズを、児童の反応を見ながら適宜行うことも効果的です。

提示する
イラスト
例

○×クイズ-1

大きくて濁った水たまり



○×クイズ-2

雨の日のお出かけ



3 雨の良いところってどんなところ？

ねらい：雨の悪い部分だけではなく、雨の良いところに気付く
豊岡市の豊かな自然に興味をもつ

■ 雨によってもたらされる恵みのイラストを提示する

提示する
イラスト
例

3-1	<p>雨の恵み①花が育つ</p> 	3-2	<p>雨の恵み②野菜が育つ</p> 
3-3	<p>雨の日</p> 	3-4	<p>豊岡市の自然（川）</p> 
3-5	<p>豊岡市の自然（山）</p> 	3-6	<p>豊岡市の自然（コウノトリ）</p> 

■ 雨の良いところを伝える



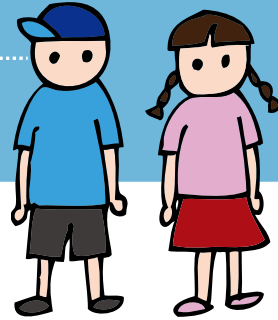
雨は怖いだけではなく、雨が降ることで良いこともあります。

ポイント

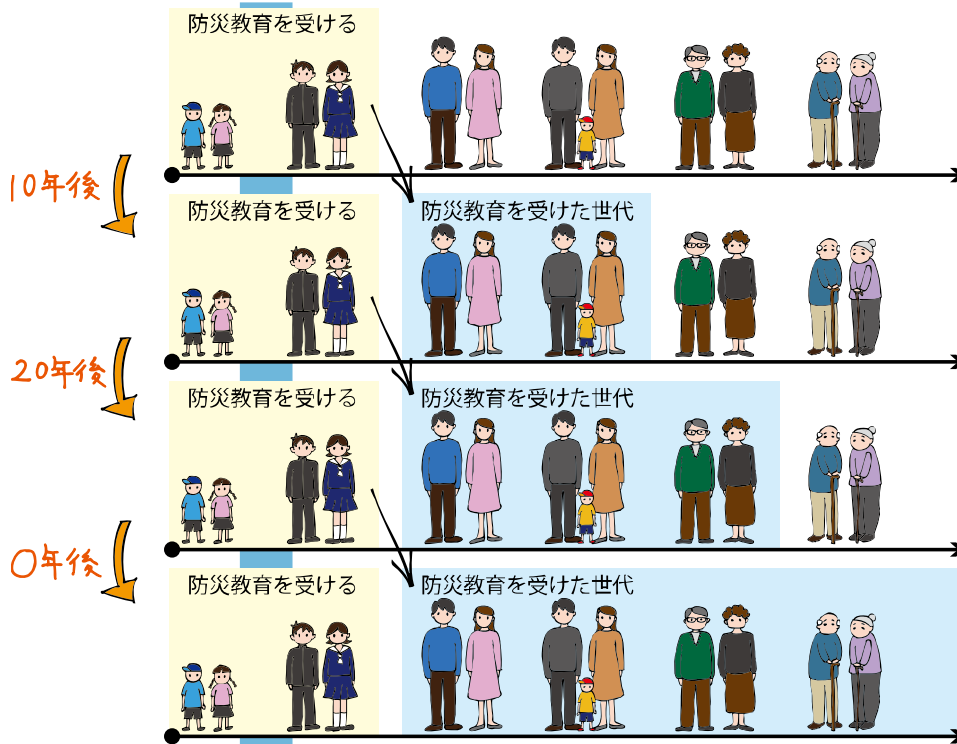
- 雨の怖い部分のみを提示し恐怖心を煽るのみでは、園児が雨を嫌いになってしまう可能性もあるため、雨の良いところについても一緒に伝える。

園児への防災教育にはどんな効果があるの？

災害に限らず、日々の生活の中における危険などへの
気づきや身を守る意識を育む第一歩となることを
目指しています。



さらには、防災教育を受けた子どもたちが、
10年後、地域を支える大人となり
20年後、30年後には地域の防災文化をつくる礎となります。



園児への防災教育は、
小学校・中学校での防災教育への橋渡しとなります。

ぜひ、園でも防災教育に取り組んでください。